

小田原市教育委員会臨時会会議録

1 日時 令和2年8月4日(火)午後7時00分～午後8時18分

場所 小田原市役所 7階 大会議室

2 出席者氏名

1番委員 栢 沼 行 雄 (教育長)

2番委員 和 田 重 宏 (教育長職務代理者)

3番委員 吉 田 眞 理

4番委員 森 本 浩 司

5番委員 益 田 麻衣子

3 説明員等氏名

教 育 部 長 北 村 洋 子

教育部副部長 飯 田 義 一

教育総務課長 下 澤 伸 也

教育指導課長 石 井 美佐子

教職員担当課長 高 田 秀 樹

指導主事(指導係長事務取扱) 中 山 晋

(事務局)

教育総務課副課長 府 川 雅 彦

教育総務課主査 菊 川 香 織

4 議事日程

日程第1 議案第30号 令和3年度使用中学校教科用図書(社会(地理的分野・歴史的分野・公民的分野)・地図・数学・理科)の採択について
(教育指導課)

5 議事等の概要

(1) 教育長開会宣言

栢沼教育長…本日の出席者は5人で定足数に達しております。

(2) 会議録署名委員の決定…森本委員、益田委員に決定

(3) 日程第1 議案第30号 令和3年度使用中学校教科用図書(社会(地理的分野・歴史的分野・公民的分野)・地図・数学・理科)の採択について
(教育指導課)

○教育指導課長 それでは、御説明申し上げます。

7月28日の定例会及び31日の臨時会におきまして、令和3年度使用の中学校教科用図書16種目のうち10種目について、御採択いただいたところでございます。本日は社会(地理的分野・歴史的分野・公民的分野)・地図・数学・理科の6種目につきまして、小田原市の生徒にとって最もふさわしい教科書を採択していただくこととなりますので、どうぞよろしくお願ひします。

説明は以上です。

(質疑・意見等なし)

○栢沼教育長 それでは、令和3年度使用中学校教科用図書の採択方法につきまして、改めて確認いたします。

各委員の独自の調査研究をもとに、小田原の子どもたちにとって最もふさわしいと考える教科書について、1社または2社について御意見を申し上げます。一通りの御意見をいただいた後、挙手による多数決を行い、採択します。過半数のものがあればそれを採択しますが、過半数となるものがない場合、再度上位2社または3社による多数決を行い、採択します。このような方法で進めてまいります。

本日は、社会（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）・地図・数学・理科の6種目について採決を行います。

○栢沼教育長 まず、地理的分野から採択を行います。地理は、4社が発行しております。

委員の皆様から御意見を伺います。

○和田委員 4社を見させてもらいました。その中で、例えば教育出版の場合は、今、新型コロナウイルスの感染拡大で、世界中の人がどこの国で、どの地域で流行しているかということに関心を持っているときでもある。だから、そういう意味で、教科書の巻頭部分に示されている「地理の見方・考え方」は、非常にタイムリーで意識づけができていたと思いました。

それから、「地理の窓」という学習コラムは、学習から興味を広げていく。そういうことに広がりを持って見ていられたなと思いました。

例えば23ページの「日本の最南端をめぐる問題」では沖ノ鳥島が、111ページでは「サッカーとブラジル社会」が扱われていて、そういうものも非常に学びの幅を広くしているなど感じました。

もう一つは、帝国書院ですけれども、これは表紙を開いたところに、SDGsの17の目標を写真別にわかりやすく示していました。

本文中に、「未来に向けて」というのがあり、持続可能な社会を作るために参考になる取組を環境、防災、共生ごとに25のテーマで取り上げている。また、内容を少し詳しく知りたいていところでは、随所にQRコードがすごくたくさんあるのです。

これは、前回も申し上げましたけれども、QRコードは、教科書の検定の項目に入っていないけれども、これから先のことを考えると、これを授業で活用していくというのは流れではないかというふうに思います。

このQRコードの利用の利点というのは、やはり最新の資料、情報を提供できることに繋がっていくことだろうと思います。

さらにですね、「技能をみがく」というところでは、地理を学習する上で必要な基礎的な技能を身につけることが、23のテーマにわたっておこなわれている。

その中で例えば、「地球儀での距離と方位の調べ方」だとか、「ルートマップの作り方」だとか、「ハザードマップの読み取り方」などが詳しく説明されていて、これも我々が生活していく上においてはとても役に立つことだなと思いました。

どちらがいいのかなど決めかねていまして、皆さんの御意見を伺いながら決断したいと思います。

以上です。

○森本委員 私は4社の中で帝国書院を推したいと思います。

地理の学習を通して、生徒が異文化の理解、国土の理解を深めて、グローバル化する国際社会の中で、生き抜いていくための、主体的な取組や深い学びにつながるように構成されていると感じました。地球には自然条件や社会条件の異なる様々な地域があって、それぞれの地域に独自の文化が広がっていることを示して、その地域に暮らす人々の姿、自然環境や文化、産業などを多面的に見ることで、地域の特色を理解するようにされているなど感じました。

地域の姿が見える写真、イラスト、地図で印象深いものが多く掲載されておりまして、特に写真では新鮮な驚きを生み出す、特色のある自然や産業を捉えた写真、有名な観光地をポイントに選定され、生徒の興味、関心を引くものでございました。

日本の各地を概観できるイラストや地図も見やすく、生徒にとっても親しみやすいものではないかと思いました。

以上の点から帝国書院を推したいと思います。

○益田委員 地理と言う学習は、世界や日本の地域を自然・産業・文化などとして多面的に理解できるかどうかということが大切だと思っています。その視点から見た時に、帝国書院を推したいと思います。

帝国書院の最初のほうの題材で、「いろいろな国の国名と位置」という単元がありますが、そこで面積や国旗、緯度、経度などスタンダードな比べ方だけではなくて、海との位置、スポーツ、料理、映画など中学生が興味を持つような多様な視点でいろいろな国を比較していたところに着目しました。

世界の地域を学ぶ章や日本の地域を学ぶ章では、各地域の特色ある産業や農業がどのように発展していったのか、どういう背景で発展していったのか、歴史的事実との関連付けで説明をされていました。

また、巻頭の見開きで絵を用いながらSDGsについて説明されていて、さらに「未来に向けて」では、持続可能な社会を作るための25の取組、「地域の在り方を考える」では、日本の地域でも取り組まれている事例も紹介されていました。そういうものを読むことで、現在の日本や世界が抱えている問題への意識付けができるのではないかと思います。以上のことから、私は帝国書院を推したいと思います。

○吉田委員 私は地理の学習を通じて、地理的な知識を得ると共に、地理的な条件、環境を各国において知ることによって、グローバルな課題に対して、自分なりの意見を持てるような、育ちがあると良いと思います。

そのためには、地図帳とか統計などを読み込めるような基礎的な力をしっかりつけてほしいとも思います。

そのような点から、帝国書院が良いのではないかと思いました。

帝国書院では「技能をみがく」というコーナーで地図帳とか統計グラフなどの読み取り方など技術が身につくようになっていきますし、「節の学習を振り返ろう」で振り返るとともに、地理的な見方・考え方を説明しようというものがたくさん出ていて、思考力・判断力・表現力を養う意図で、指導ができると考えました。

写真とか、読み物資料が多彩であるということも興味を引くのではないかというふうに考えます。

このような点から、帝国書院を推したいと思います。

○栢沼教育長 私は、帝国書院を推します。

まずは地理分野で一番大事なところは、地理と歴史の関連づけが非常に重要なと捉えております。そういった意味で見させてもらいました。

帝国書院の場合、人々の営みを映し出す画像やイラスト、あるいは地図によって学びに向かう意欲を涵養できる資料が大変豊富に掲載されていました。また、「技能をみがく」では、基礎を学んで資料を活用できるように2次元コードの利用で、資料の一部をパソコン等で閲覧をでき、生徒の理解を促す工夫が随所に見られました。地理的分野にコラム・特設ページがありまして、対話的な学びあるいは、深い理解を目指した考え方を提示していること、さらには地球環境の話題、経済、社会問題を幅広く盛り込んでいて、世界や日本の課題解決に向けた取組を紹介しております。

そういった理由で帝国書院を推薦します。

(その他意見等なし)

○栢沼教育長 御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	0票
教育出版	…	0票
帝国書院	…	5票
日本文教出版	…	0票

○栢沼教育長 採決の結果、「帝国書院」を令和3年度使用小田原市中学校地理的分野の教科用図書として採択いたします。

○**栢沼教育長** 次に、歴史的分野の採択を行います。歴史は、7社が発行しております。

委員の皆様から御意見を伺います。

○**吉田委員** 歴史を学ぶことによって、人々の営みを知る、そしてこれからの姿を考えていく、そのようなことが学べたらよいのではないかと思います。その観点から、私は帝国書院を推したいと思います。

「タイムトラベル」というところが章の最初に出ていて、時代の流れを絵を見て考えながら、まず興味を引くようなところで、歴史に関して人々の営みとか、まちの姿に落とし込みながら、興味を持てるのではないかと思います。

私も「タイムトラベル」面白く読ませてもらいました。全編を通じて問いかけたり、振り返ったりできるようになっていて、また様々な資料の使い方については、人の生きている姿が重なってきて、それが歴史を編んでいるというような、そういう人間の息遣いが感じられるような扱いを感じました。

歴史という重たいものが、一人一人の人々の暮らしを重ねてきた結果なのだというところを感じられるようなテキストだと思い、とても温かみを感じました。

そういうようなことを、小田原の子供たちにも感じながら歴史を学んでもらいたいと思いますので、帝国書院を推したいと思います。

○**益田委員** 歴史という教科は、年号や事象を暗記するだけに陥りがちなのですが、帝国書院がその事象の裏にある人々の立場や思いに着目して、多角的に歴史を捉えるという工夫がされていました。

一番共感したのは、「はじめに」の中に歴史の舞台に立って人々が置かれた状況や、多様な願いへの理解を深めれば、人々の様々な立場とその多様性を踏まえた未来の社会の成長を考えていける、私たちは未来のために歴史を学ぶということが書かれていました。

その姿勢は、私がすごく新鮮に感じたので、とても良いなと感じました。吉田委員がおっしゃっていたように、「タイムトラベル」は私ものめり込んで見比べてしまうくらい面白いページだったので、中学生にとっても、時代時代で、人々がどう生きていたかがイラストから捉えることができるのだろうなど。各ページには「確認しよう」とか、「説明しよう」というのがありまして、自ら考えて、自らの考えを表現するという促しがあって、主体的な学習につながるなと感じました。

以上から、帝国書院を推したいと思います。

○**森本委員** 私も帝国書院を推したいと思います。

益田委員からもお話しがありましたように、歴史の舞台に立って人々が置かれた多様な状況や願いへの理解を深め、生徒に未来を考えていけるような教科書づくりをされていた印象に残ったのが、「タイムトラベル」でその時代の社会の様子を絵画や写真、遺構などの歴史的資料に基づいて描いていました。イラストで時代のイメージを視覚的に生徒が捉えることができ、生徒の興味・関心を高めるものだと思います。

「タイムトラベル」のイラストは本文ページの学習と関連させていまして、各時代の政治・経済・文化の内容について、文書だけではイメージしづらいことも、イラストで視覚的に確認することで、理解が深められるように工夫されていました。

文化史ページでは、各時代の代表的な文化を大きな図版でわかりやすく紹介して、伝統文化への関心を高めるように工夫されていました。

文化の担い手や文化が生まれた時代背景についても、政治や経済の内容と関連付けてわかりやすく解説されていました。

このような点から、帝国書院を推したいと思います。

○和田委員 我々歴史と云ったら、山川出版のイメージが非常に強くて、高校の教科書でもあったし、馴染みが深いんですけど、やはりちょっと難しいかなという感じがしたのです。

今、皆さんが帝国書院を推されているようですが、違う意味で、教育出版も、良いなと思いました。その点ちょっと申し上げておきます。

結論から言うと、やはり地理と同じように甲乙つけがたかったんですよね、教育出版、帝国書院は。具体的に律令国家の歩みのところを、両方、この項目をつぶさに比べてみて、チェックして調べてみたんですけど、ほとんど同じです。

ほとんど同じで、差がないってところで、非常に判断に困りました。ですが、皆さん「タイムトラベル」に非常に興味関心をお持ちのようでした。私も実は同じように関心を持ちました。

ただ、教育出版の方の「身近な地域の歴史を調べよう」というところで、いわゆる地域調査の手引きっていうので、7ページにわたって丁寧に、わかりやすく、説明していたのですよ。ちょっとこれに引かれました。

丁寧にわかりやすくっていうことは、教科書にとってはとても大事なことで、そこにとっても配慮されているなということを感じました。

教育出版も帝国書院も他の教科書もそうだったんですけど、本文中の語句に番号を振って、一つ一つ解説しているってところでもですね、丁寧さを感じたのですよ。

例えば武家諸法度のところでは欄外に、1635年と、1615年の武家諸法度について細かく説明されていた。

このわかりやすく丁寧にというところが、ものすごく教科書作りでは重要なことなのだと思う、これもなかなか判断に困ったんですけど、教育出版を推します。

○栢沼教育長 私は日本文教出版を推します。

まず見やすい上に参考書的な作りになっていて、大変わかりやすい編集をされて、また特徴的には「女性史コラム」というのがあって、各時代の女性に焦点を当てた話も掲載しているという特徴も見られました。

あと災害の歴史、あるいは政治参加の歴史、未来に向けての課題が『「歴史との対話」を未来に生かす』というところで掲載されておりまして、課題を追求とか解決する活動が図られるように工夫されているなど感じました。またそういった中で特に小田原に関連した、解体された小田原城天守閣の写真も載っておりまして、小田原の子供たちにとって興味を抱かせる写真であると感じました。

また、社会的な見方、あるいは考え方を働かせる学習という点から見ると、学習課題とともに、時系列あるいは推移、比較、繋がりこの四つのキーワードを通して示した見方・考え

方が掲載されておりました、非常に社会的な見方・考え方を働かせる教科書かなと感じました。

日本文教出版を推します。

以上です。

(その他意見等なし)

○栢沼教育長…御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	0票
教育出版	…	1票
帝国書院	…	3票
山川出版社	…	0票
日本文教出版	…	1票
学び舎	…	0票
育鵬社	…	0票

○栢沼教育長 採決の結果、「帝国書院」を令和3年度使用小田原市中学校歴史的分野の教科用図書として採択いたします。

○栢沼教育長 次に、公民的分野の採択を行います。公民は、6社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○和田委員 公民というのは私たちの今とこれからを平和に安心して暮らせるにはということの子供たちとともに考える教科だと思っております。そういう視点で、教科書選びをさせてもらいました。

特にいいなと思ったのは、東京書籍と帝国書院と教育出版の三つだったんですね。その3社について、細かく見ることにしました。

東京書籍の場合、いいなと思ったのは「もっと公民」というところで、学びを深めたり、広げるというところで良かったなということ、それからもう一つは、「みんなでチャレンジ」というところで、グループで話し合うというところが良かったなと思いました。最終章のところ、より良い社会を目指して持続可能な社会を目指そうというところで、ゴールを非常に明確にしていました。

帝国書院の場合も、地理のときにも言ったのですが、QRコードが非常に多く、参考になりました。

「アクティブ公民」というところで、みんなで話し合うとか、技能を磨くというところでロールプレイングをやってみようっていうようなところも、いい提案だったなと思います。

何よりも、良かったのは、先輩たちの選択という「キャリア教育」を取り上げているところはとっても良かったと思います。

帝国書院の場合も、ゴールが未来に向けて、SDGsがはっきり提示されている。

教育出版の方は、章の初めに「学習のはじめに」が用意されていて、キャラクターが具体的な会話を通して、わかりやすい学習の見通しを示しています。

前回は申し上げましたが、やはりわかりやすいところに気を使って編集しているなというところを、この教科でも感じました。

そんなようなところで、あとは章立て、節でも平易な言葉で説明しているところが良かったなというふうに思います。

もう一つは、「公民の窓」が随所に出てきて、公民を考えると基本項目の説明、解説、「公民の技」もまた学習を深め、広げるという役目で、良かったなと。

最終章で、やはりここでも同じように、「持続可能な未来と私たち」というところで持続可能な未来を築いていくために私の提案作成というのが、1から6で具体的な項目を挙げているのです。これも良かったなと思いました。コラムでは、「エシカル消費」というようなことが説明されていて、今を生きていくのには、また未来を生きていくのにはとてもいいことだろうと思いました。

3社で迷いましたが、全体として平易でわかりやすい作りになっているというところでやはり教育出版を推します。

○森本委員 私は帝国書院を推します。

よりよい社会を目指して自分ごととして捉え、主体的に社会の形成に参画できる力を育むことを目指しておりました。各部の冒頭に大きなイラストの導入ページを設置しておりました。学習の前に学習の全体像を把握し、資料を活用、学習課題を使ってそれを展開し、説明しよう確認しようで振り返ることによって、知識をつなげ、深い学習を目指しているところに、好印象が残りました。

各見開きの導入資料は、迫力のあるワイドな写真や、生徒に身近な事例を取り扱って、生徒が実感を伴い、本文の理解が容易になるように工夫をされていると思いました。

また、資料活用の資料が充実しておりまして、こちらも生徒が興味を持つ内容が多くて、情報活用能力の育成につながるよう工夫されており、生徒が考えたい発問が用意されており、見通しを持って学習に取り組めるように配慮されておりました。

和田委員からもお話しがありましたが、「アクティブ公民」では、現実の社会で起こりうる事例を提示して、課題を追究していくことで、思考力・判断力を養い深い学びにつながるよう工夫されていると感じました。

以上の点から、私は帝国書院を推したいと思います。

○益田委員 公民という教科は社会の仕組みを理解して、社会参画の意識を高めていくことが必要であるという視点で各社の教科書を読ませていただきました。

その中で私は帝国書院を推したいと思います。

先ほどから出ているように「アクティブ公民」ではロールプレイングやディベートなどを使って学習事項を確認する作業の中で、様々な立場からものを考え、自分の意見を伝えて、

話し合う機会を設けていました。このことは、言語活動の育成にもつながると考えます。あんまり大きなコラムではなかったのですが、「Yes No」というコラムで取り上げられているのが夫婦別姓など、現在の社会に見られる課題を話題に挙げていまして、それぞれの反対、賛成の立場の意見例が掲載されていて、両方の立場から考えることができるようになっていました。

先ほど和田委員からもありましたように、先輩たちの選択で、野村萬斎さん、池上彰さん、国会議員や落語家、あとは国連の職員など多種多様な方々のインタビューが載っていて中学生が成人して社会にどのように関わっていくかの道筋になって、キャリア教育の一助になるのではないかと思います。

以上のことから帝国書院を推したいと思います。

○吉田委員 私は公民を学ぶことを通じて社会の形成者としての自覚を持ち、自分なりにどのような社会が目指すべき社会なのかということを考えるという、基盤を得てほしいというふうに思います。

そういう点から私も、帝国書院を推したいと思います。

科目について興味を引くような、大きなイラストがあり、例えば40年前と今の社会を比較してみようということで、現在と40年前でどう違うのかイラストを通じていろいろ発見していき、そこから課題意識を持つとか、見開きで私達の暮らしと憲法の関係を見てみようということでイラストから発問していくというような、課題意識を触発させるような投げかけがあったというふうに思います。

そして益田議員もおっしゃっていたのですけれども、「Yes No」というコラムのところで両論併記をしているものがあり、両方から一つのことを論じており、こういう考え方で賛成している人があり、こういう考え方で反対している人がいるという世の中の意見をいろいろ知ることと同時に、自分はどんなのだろうということを考えさせるような内容のもので、私は特にこれが今の社会について中学生が考える、結論は出ないけれども考え続けてほしいことを取り上げているというふうに思いました。

死刑制度とか夫婦別姓とか防犯カメラの設置、いろいろ今世の中で話題になっていることを、こうですよと教えるのではなくて、世の中でどんなふうに人々が意見を戦わせているのかというのがタイムリーに分かるというところで、中学生でも、いろいろ調べたり、考えたりするようなきっかけになるのではないかと思います、小さなコーナーですが、とても貴重だと感じました。グラフとか写真とかも豊富ですし、地理や歴史との関連も図られていると思いました。

企画書を考えるというのも面白い取組だと思いました。子供たちが興味を持ちながら社会の在り方について自分なりに自分に問いかけ、周りの人と話し合うことができる教科書ではないかと思いますので、帝国書院を推したいと思います。

○栢沼教育長 公民という分野の学習で一番大切なのが、日本国憲法を正しく解釈して身に付けるということです。あと人権尊重、あるいは国家の関係を理解すること、ここが学習で大事にすべきだなと思っています。

各社とも生徒同士の対話を促す工夫がこらされていました。またSDGs、これは今の社会の課題を抱えていくための大事な視点として、各社で取り上げられておりました。そうした中で、私としては帝国書院を推します。

まずは内容あるいは資料の質も大変良い、バランスが良い構成で、まさに現場の教員が使ってみたい教科書になっている。

それから近隣の騒音問題についてロールプレイングなどを学習内容に含ませて、事実関係を把握した上で、自らがどう考えそしてどう振舞うか、そういう段階まで学習が発展できるような、そうした工夫が見られました。

特に注目したところは、グループ討論の一例として投げかけられていた「赤字バス路線に税金を使うべきか？」というところです。過疎化が進んだ山間部の赤字バス路線、人口の推移、あるいは市の歳出状況など複数の資料をもとに、市長の立場になって議論する中で、効率とか公正、これを踏まえて、課題解決を考えてもらうという狙いが伺えました。

また「根拠に基づいた主張をする」「相手の主張をむやみに否定しない」など、注意点も書き添えておりました、生徒同士の対話を促す工夫が凝らされております。そういう教科書であったことから、帝国書院を推したいと思います。

以上です。

(その他意見等なし)

○栢沼教育長 御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	0票
教育出版	…	1票
帝国書院	…	4票
日本文教出版	…	0票
自由社	…	0票
育鵬社	…	0票

○栢沼教育長 採決の結果、「帝国書院」を令和3年度使用小田原市中学校公民的分野の教科用図書として採択いたします。

○栢沼教育長 次に、地図の採択を行います。地図は、2社が発行しております。

委員の皆様からご意見を伺います。

○吉田委員 地図が見やすいという点で帝国書院を推したいと思います。

大判化してさらに見やすいということをポイントとして、紙面がとても見やすく、同じように他の会社の地図と比べても、地図全体を見て、場所を探しやすいとか、それから見て

いて、疲れないとか、そういう意味で見やすい工夫がいろいろされているというふうに思います。

そして資料も大変詳しいですし、地図帳の使い方についても丁寧な説明があったというふうに感じましたので、帝国書院を推したいと思います。

○益田委員 私も地図は帝国書院を推したいと思います。やはり大判で細かいところまで見やすかったです。「地図活用のコーナー」で、地図から読み取る学習活動や言語活動を促している点が良いな思いました。

以上の点から帝国書院を推したいと思います。

○森本委員 私も帝国書院を推したいと思います。

A4版の大判化で、見やすい、使いやすいをポイントとして、紙面編集を行っておりまして、全編においてユニバーサルデザインで色、文字、書体、大きさに加え、やはり記号のデザインやレイアウトの統一にも配慮して、見やすさを工夫しておりました。

防災に関する資料も充実しておりまして、自然災害の発生の過程から被害対策、そして復興まで学べることができ、地図だけではなくて、防災への関心が高めるように工夫されているなと思いました。とても字が見やすい感じがしました。

以上です。

○和田委員 今大きさが2社違うのですよね。教科書の大きさについて、ここと違う視点で言うてしまうのですが、言う場所がないから言いたいのですが、実は学校現場を見てみると、机の大きさは同じなのですよ。ずっと昔から。だけど、教材教具だけが大きくなっているのですよ。いろいろな意味で。種類も増えている。そういう状況から言うと、またインターネットを使った授業とかいうようなことになるとまたそこに教材、教具がプラスされていくという。机の大きさはこれでいいのかなという思いと同時に、やはり教科書づくりもきちんと考えたほうがいいのではないかと。この教科に限らず。教科書作りに関わっている方たちがいらっしゃる場で一度言いたかったんです。それが前段です。

地図に関して言うならば、グローバル化した現代において、地政学的な見方は、問題解決に欠かせない要素になっていくということと、今回特に新型コロナウイルスの世界的広がりが問題になっていて、今後はワクチンの分配ってというような課題も山積してくると思うのです。

そこでやはり貧富だとか人口だとか政情不安など様々な課題があって、地図を参考にしてそういう解決の参考、視点を持つということは、大事かなっていうふうに思いました。

先ほど大きさを言ったのとちょっと相反するようなことなのですが、地図帳に関しては、やはり大判で見やすく使いやすさからいうと、帝国書院かな。

○栢沼教育長 私は帝国書院を推薦します。

今までも出ておりましたけれども、大判で見やすく使いやすい、そういう紙面の編集がされております。より詳しい内容も掲載されておりまして、地図帳としての機能を十分に満たしている教科書というように捉えています。

また、地域ごとに一般図、主題図、拡大図、資料図が掲載されているというのも地図帳としての機能を十分に満たしている。

また、地図帳の巻頭部分に、地図帳の活用方法が示されておりまして、地図帳の基本的な見方・使い方をわかりやすく解説しています。

また、「函館山の山頂からゴールまでの直線距離を縮尺から求めよう」などの問いが地図活用の中に掲載されておりまして、地図から読み取る学習活動を促す工夫もされている教科書でありました。

ですので、帝国書院を推したいと思います。

以上です。

(その他意見等なし)

○栢沼教育長 御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍 … 0票

帝国書院 … 5票

○栢沼教育長 採決の結果、「帝国書院」を令和3年度使用小田原市中学校地図の教科用図書として採択いたします。

○栢沼教育長 次に、数学の採択を行います。数学は、7社が発行しております。

委員の皆様から御意見を伺います。

○和田委員 たくさんあって、目を通させてもらいましたが、全体としての感想は、やはり従来型の体裁で作られている会社と、その中でも改善していこうという意図を感じられる社のものと、それから啓林館は、裏と表両方から見る、斬新的な教科書作り、今までこういうふうな教科書見たことないのですが、こういうような作りの中で感じたことはですね、従来型は今の社会の移り変わりの変化の状況から言うと、もうちょっと時代とともに改善したらいいなっていうようなことを思いました。後と前から教科書を使っていくっていうような使い方については、まだちょっと現場では抵抗感があるのかなとそんな感じをしました。

そこです、一応数学で言うと一番大事なことは習熟だと思うのですよ。いかに習熟していくか、させていくかっていうことだと思うので、その点ではどこの社もこれに配慮されているのですけれども、学校図書と大日本図書では、そういう配慮が、十分にされているというふうに思いました。

それから、小学校から中学校への繋がり、要するに算数から数学に変わっていくときに、多くの生徒たちがつまずくのは言葉なのです。

数学という言葉にきちんと意味がついていかないところで、数学は嫌いという状況になってしまう、わからなくなってしまう。この言葉をきちんと注意を払って取り上げているの

が、学校図書と大日本図書だと思いました。字体を変えて、非常に優しく解説している点もいいなと思いました。

最後に、数学の勉強をして社会にどんな役に立つのかというようなことが、やはり子供たちの課題になるんですね。その点では学校図書では、さらなる数学へということで、疑問を考えようというところで、米は何粒かっていう面白い話だなあと。数学ってこういうところで使うんだねっていうふうなことを面白おかしく分からせてもらった。

それから、大日本図書でいうと、鉛筆の芯はどれだけ使えるのかとかですね、素数の力で生き抜いてきたセミなんていうふうに興味の湧きそうなものが、たくさん用意されていました。

最終的には大日本図書がいいかなって判断した根拠になるんですけど、仕事の中の数学というところで、社会とリンクするというのも、数学を使って活躍している人たちの紹介の欄がある。ここが良かったなあとと思うのと、広がる数学の世界でオリンピックのエンブレムの仕組みを解説している。

これも大変よかったな。だから迷いながらですね、最終的には大日本図書が数学としてはいいのではないかと判断しました。

○森本委員 東京書籍を推したいと思います。

まず算数と数学の学びを繋ぐために、1年生で「0章」を設定してあります。小学校中学校の円滑な接続が図れるように、生徒のなじみのある掛け算、九九の表で、算数が苦手な生徒でも取り組めるように工夫がされていると思いました。章のとびらでは、身近な場面で問題を提示して、生徒の関心・意欲を高め、主体的に学びをつなげるように工夫されていました。節の導入部分では、作業的な活動を取り入れて、ワークシート形式の紙面で構成されておりまして、これで生徒が意欲的に取り組めるように工夫してありました。深い学びでは日常生活で解決の必要にせまられる場面を、興味を引くイラストで表現して、こういったことで生徒の解決してみたいという思いを引き出し、どのように考えれば日常の問題を数学で解決できるかそういった数学の考える楽しさを実感できるような構成になっている。

全体的に数学が苦手になりそうな生徒でも、学びの気持ちを高めることを配慮して設定されているなと思いました。

以上の点から東京書籍を推したいと思います。

○益田委員 数学は自分の子供たちや子供の友達を見ていて思うのは、算数から数学に移った時に一番つまづくのは、正の数と負の数だと思っています。その概念がわからないまま進んでしまうと、その後の学習が全くわからなくなってしまう経緯等を見てきていますので、そこに着目をして、各社見させていただきました。

その中で一番平易な感じで子供たちに説明していたのは、学校図書です。スポーツとか気温などの題材を使って、負の数が身近なものであると気づかせること工夫がありました。その後の加減法では、巻末のカードゲームを使用することで、数直線へのつながりをスムーズに学べるようになっていました。単元で何を学ぶのかという見通しを立てて、最後に振り返りができる構成にもなっていました。

まず、各章の導入部分の見開きページで、その単元の問題を、中学生が身近に感じられるような題材を使用し、自ら課題を見つけ、問題を見つけるようになっていました。例として、3年生の円の単元で、サッカーゴールが書いてあって、どの角度から入れたら入れやすいかという、中学生が飛びつきそうな楽しいイラストが載っていて、そこから円周角と中心角への学びをつなげていました。

数学はとても苦手意識を持ちやすい教科なので、中学生が興味を持てるような雰囲気を持った教科書がいいなと思ひまして私は学校図書を推したいと思ひます。

○吉田委員 私も数学を苦手と思ひて欲しくないなので、わかりやすく、そして段階的に学ぶことによって、達成感が得られるような教科書が良いのではないかと思ひまして、学校図書を選びました。

知識とか技能、これから自分が何について学ぶのかということが明確に示されていることとか、目標に沿って自分が何をどんな力が得たのかというようなこともわかるというような構成になっていて、段階を踏んで学んでいくというところに、たくさん問題が用意されていて、問題をやることによって、自分自身の力をつけていく、そしてそれが段階的に進んでいくことによって、達成感を得ながら、数学の力がつくというような構造になっていると思ひました。

また、実生活に生かすというようなことについても言及して、数学が教科書の上だけのものではなくて、自分が暮らしている社会の中でも生きているものなのだという学びについての意欲、動機付けにもつながるようなコーナーもありましたので、私は学校図書が良いと思ひました。

○栢沼教育長 私は学校図書を推したいと思ひます。

まず、系統制もしっかりして、振り返りをしやすく、オーソドックスで、大変わかりやすい教科書だと思ひます。また、問題数も妥当である。

特に1年の教科書では章の冒頭に身近な課題から導入できるような事例が掲載されています。「Question」がありまして、学んだ事項に関する見方や考え方、それを問ひかけていて、自ら深い学びに繋がるような工夫をされています。

さらに巻末には1年間の学習の振り返り、あるいはより具体的な課題を提示し学んだ内容が、現実の社会でどのように活用されているか、これを実感しながら学べる構成になっている教科書です。

特に考えを表現して深めることについての記述が、教科書では見られていて、図から数式を求めたり、表から数式を求めたりする「電源までの距離は」などわかりやすく構成された教科書だと思ひます。

先ほど益田委員もおっしゃっていましたが、基礎的な知識、技能、これを身に付けるための工夫として、正の数、負の数の利用。これが「Question」という形で掲載されていて、日常生活、あるいは実社会との事柄を課題として正の数、負の数の活用が学べるという面でもすぐれた教科書で、学校図書を推薦します。

(その他意見等なし)

○栢沼教育長 御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	1票
大日本図書	…	1票
学校図書	…	3票
教育出版	…	0票
啓林館	…	0票
数研出版	…	0票
日本文教出版	…	0票

○栢沼教育長 採決の結果、「学校図書」を令和3年度使用小田原市中学校数学の教科用図書として採択いたします。

○栢沼教育長 最後に、理科の採択を行います。理科は、5社が発行しております。委員の皆様から御意見を伺います。

○吉田委員 理科につきましては、知識ももちろんですが、手順を踏んで考えるという科学的思考が自然に身につく、堅苦しくなく身に付くという研究とまでいかないのだけれども、確からしいことを探し出していくような考え方や議論の仕方が身に付くと良いのかなと思っています。また、理科という教科を通じて生活の中の理学的なことに、その分野に興味を持って、考えたり調べたりできると良いと思います。

その点から大日本図書を選びました。

「くらしの中の理科」とかの「Science Press」などのコーナー、そして「やってみよう」というところにも繋がったことを生かして自分で実験できる場所も多いですし、「Science Press」というコーナーは学年を追うごとに高度になってきて、最初読んで難しくないかなと思ったのですがとても興味深く読めるような内容になっていて、1年生2年生3年生と追うごとに興味を持って、理科という学びに向かっていけるような、引き出しを増やすような内容になっていたと思います。

そういうようないろいろな仕掛けがあって、学んだことを生かしたり、広げたりしやすい教科書ではないかというふうに感じましたので大日本図書が良いと思います。

○益田委員 理科は課題をまず見つけて、観察、実験して結果から考察をするという理科の面白さが伝わるような内容になっているかに着目して読ませていただきました。

その中で私も大日本図書を推したいと思います。大日本図書は、単元の導入部分で、これまで学習したことが、イラストや写真を使って楽しくまとめられていて、しっかりとやってきたことを復習してから新しいことを学べる作りになっていました。

また、単元末のまとめや、単元末問題、読解問題で、生徒が主体的に学べるようになっていました。特に、読解問題では、暗記するだけでは解けないような資料を読んで、自ら考え

て表現するという力が達成できるような問題がたくさんありました。「探究活動」というところでは、課題を発見し、観察実験を通して課題を解決するという理科の持つ面白さ見つけられるように導かれているなど感じました。「Professional」や「科学のあしあと」というようなコーナーでは、様々な職業や技術、科学の歴史などの資料が載っていて、随所に学びの深まりを促す工夫が見られました。「発展」マークのところでは、当該学年以上で学ぶ内容が載っていて、より理科に興味のある生徒には、発展的な学びを提供することができるのではないかと思います、以上の点から大日本図書を推したいと思います。

○森本委員 私也大日本図書を推したいと思います。学年全体を通して興味・関心を高めるような観察、実験、写真などの画像や資料を取り上げまして、主体的に生徒が取り組めるように配慮されているなど感じました。

先ほども話でしたが、「くらしの中の理科」が各学年で豊富に掲載されており、理科で学習することは、身の回りとたくさん繋がっているということ、生徒自身が意識できるようなつくりになっていると感じました。

「発展」マークのところにリンパ液の役割、血液が固まる仕組み、目の網膜の光を受け取る細胞がない部分、遺伝子技術による発見と応用など、医療に関する題材がありまして、理論的にわかりやすく記載されておりまして、生徒の興味・関心を高めていると感じました。

2年生の「気象の仕組みと天気の変化」の単元では、私たちの生活に関わりの深い日々の天気の変化、気圧、気温、湿度、雨などの気象との関係や日本の四季がもたらす豊かな自然、気象災害について、学ぶようになっておりました。これらも写真、図イラストがわかりやすく原理を理解するために工夫されているなど感じました。

以上の点から私は大日本図書を推したいと思います。

以上です。

○和田委員 自分の経験から言って、理科の実験だとか、観察だとか、子供たちに教えていた経験からいって、やはり危険を伴う器具の扱いってということも現場ですごく気遣うところなのですね。教える方の立場としては、その点では、やはり大日本図書の基本操作というのは充実していたかなと思います。

その中でも、やっぱり赤字で目立つように、随所に注意っていうような囲みがあって、ここは注意なさいよっていうようなこと、これは学校図書の教科書でも同じように、「ストップ！」が付いて指摘している。授業を展開していく上においては、やはり事故はとても怖いんですよ、教える立場としては。だからそこに一番注力を注いでいるというのは、大日本図書かなと感じました。

学校図書のホワイトボードっていうのは画期的な提案だったと感じました。教科書作りって、やはり時代の要請に合わせて変えていくという、エネルギーも感じることはすごく僕はいいことだと思っていて、これは大きな成果というふうに評価したいなと感じました。学校図書の場合は「Can-Do List」というのが初めと終わりにあって、きちんと目標を最初に掲げて、そして最後に自己チェックっていうようなことができるような仕組みになっている。これも非常にいいなと感じました。

ただ、大日本図書の「科学のあしあと」では、歴史上の人に焦点をあてているわけで、それから探究の活動の中で、値段の謎なんていうようなことで、こういうのも非常に面白かったなあというふうに思います。最後に、1年生の214ページには、石垣のところで、小田原城が載っているんですよ。それから、生命の星地球博物館や大涌谷も載っていて、親しみやすいそういう感じがした教科書でした。トータルで言うと、大日本図書がいいかなと、そんなふうに思います。

以上です。

○栢沼教育長 私は啓林館を推します。

啓林館の教科書は「探Q」ということをキーワードとして構成されている点です。また、ダイヤモンドとか美しい写真が非常に多く掲載されていて、子供たちがたいへん目を引く教科書だなと思いました。デジタル教材というのが実験教材ごとに集約されるという点も非常にいいなと。

単元ごとに観察と実験を計画して、そして結果を分析、振り返りをする「探Q実験」が設けられて、重視する項目に、「ここをしっかりと」付されていて、科学的に子供たちが探究する、そういう力が育成され、図られるように工夫されている教科書であると思いました。

そういった中で、例えば物質をテーマにした学習の場合には、味噌汁の具に使うアサリの砂出しと食塩水の濃度を関連させて、振り返らせて、探求のサイクルに沿って考察を進めている。こういう作りになっていることから、「探求」をキーワードとして構成された教科書だと思います。あとは、小田原にちなんだ地層の写真、また、小田原の石垣の写真等も1年生の教科書に載っております。小田原の生徒にとっては、興味深く意欲的になる教科書かなと思いました。啓林館を推します。

(その他意見等なし)

○栢沼教育長 御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	0票
大日本図書	…	4票
学校図書	…	0票
教育出版	…	0票
啓林館	…	1票

○栢沼教育長 採決の結果、「大日本図書」を令和3年度使用小田原市中学校理科の教科用図書として採択いたします。

○栢沼教育長 本日採択されました教科用図書について確認します。

社会（地理的分野）	…	帝国書院
社会（歴史的分野）	…	帝国書院
社会（公民的分野）	…	帝国書院
地 図	…	帝国書院
数 学	…	学校図書
理 科	…	大日本図書

○栢沼教育長 以上でよろしいでしょうか。

(意見等なし)

○栢沼教育長 以上で、令和3年度使用中学校教科用図書（社会（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）・地図・数学・理科）の採択についてを終わります。

6 教育長閉会宣言

令和2年8月28日

教 育 長

署名委員（森本委員）

署名委員（益田委員）